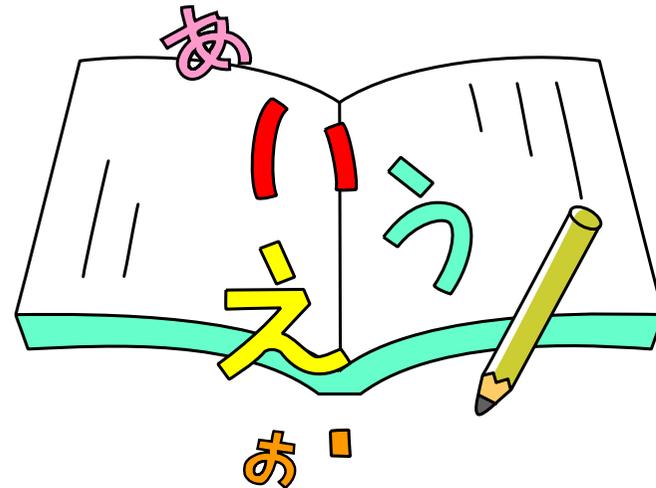


平成21年度  
全国学力・学習状況調査  
教科に関する調査  
解答状況について

小学校国語

A問題

B問題



# 調査結果から明らかになったこと

(平成21年度調査 全国傾向)

話すこと・ 聞くこと	◆ 自分の立場や意図を明確にして話し合うことに課題がある。	(B 2) 二)
	◆ 話の組立てを工夫しながら, 図を使って説明することに課題がある。	(B 4) 二)
書くこと	◇ 文章の内容に合わせて小見出しをとらえることは, 相当数の児童ができている。	(A 4)
	◆ 報告文に必要な事柄を整理したり, 事象や意見などを関係付けながら書いたりすることに課題がある。	(B 1)
読むこと	◆ 主人公の行動や心情を描写した文章の表現の工夫をとらえることに課題がある。	(A 5)
	◆ 筆者の表現の工夫や考えをとらえることに課題がある。	(B 3)
言語事項	◇ 今回出題した漢字の読みと書きについては, 相当数の児童ができている。	(A 1)
	◆ ローマ字を正しく読んだり, 書いたりすることに課題がある。	(A 2)
	◆ 接続語を使って一文を二文に分けて書くことに課題がある。	(A 8)
	◆ 毛筆の下書きについて書き直す内容を説明することに課題がある。	(A 9)

… 相当数の児童ができている点    … 課題のある点 ( )内の記号は, 問題冊子と問題番号

段落の内容をとらえる (平成二十一年度全国学力・学習状況調査 小国Aから)

6

戸山さんは、植物が仲間を増やすための種子の移動について図鑑で調べ、メモに取りました。  
 【メモ】の **ア** の中に入るふさわしい内容を【図鑑の一部】の中の言葉を使って書きましよう。

【図鑑の一部】

タンポポの種子は、綿毛のかさを広げて風を待つ。このかさがかすかな風もとらえて種子を遠くへはこんでいく。着地すると種子をおおう細かなトゲが船の錨のようにはたらいて、種子を地面につなぎ止めるのだ。果物が熟れて甘くなるのも、植物の“領土拡大作戦”のひとつである。トリやサルなどの動物に食べさせて移動するやり方だ。消化されない種子がフンと一緒に出されて、やがてその場で芽を出す。

(ガリレオ工房「びっくりふしぎ 写真で科学④ 植物の素顔」による。)  
 ※「錨」…船をとめておくために、水中にしずめておく鉄のおもり。



【メモ】

〈種子の移動によって仲間を増やす方法〉

- 一つめの方法  
綿毛のかさがとらえる風によって種子を遠くへはこんでいく方法
- 二つめの方法  
うれてあまくなった果物を **ア** 方法

説明的な文章の一部を読み、語句や文に着目して、段落の内容を的確にとらえること。

短い文章から長い文章へ発展し、目的や条件に応じた要約ができるようにする。

一文を二文に分ける (平成二十一年度全国学力・学習状況調査 小国Aから)

8

六年生の高島さんは、五年生のときから入っている放送委員会のことを文章に書き直しました。読み直した後、③の文について、「だから」を使って二つの文に分けて書き直すことにしました。「だから」を使って二つの文に分けたときの前の文の終わりの七文字と後の文の始めの七文字を書きましよう。

【文章の一部】

①放送委員会の役員を決める話し合いをした。②ぼくは、委員長を任されることになった。③新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

※解答は、解答用紙に書きましよう。

\_\_\_\_\_

だから、

\_\_\_\_\_

接続語は、文章の論理的な関係を把握するために大切な役割を果たしている。

二つの内容が含まれている文を読み、接続語を使って二つの文に分けて書くこと。

自分の伝えたいことを明確にし、接続語や文末表現を工夫しながら簡潔に伝えることができるようにする。

# 調査報告文を書く

(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 小国Bから)

1

六年生の山中さんは、「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を読んで、興味をもちました。そこで、自分たちの小学校における五十メートル走の平均タイムの変化について調べ、次の報告文を書きました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

## 五十メートル走の平均タイムの変化

第一小学校 六年 山中 洋平

### 一 調べた理由

「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を見つけた。そこには、全国の小学校六年生の五十メートル走の平均タイムが下の【表】のようにまとめられていた。平成十九年のタイムが、二十年前の昭和六十二年よりもおそくなっていた。

【表】50メートル走の平均タイムの変化 (全国の小学校6年生)

男子		女子	
昭和62年	平成19年	昭和62年	平成19年
8秒60	8秒91	8秒91	9秒19

(右下に続く)

### 二 調べた内容と結果

ぼくたちの学校でも同じだろうかという疑問がわいてきた。そこで、第一小学校の平均タイムの変化について調べ、記事と比べてみることにした。

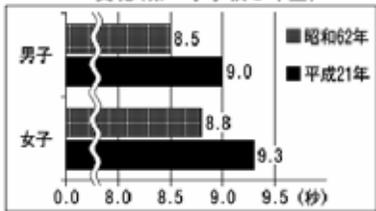
第一小学校における六年生の五十メートル走の平均タイムの変化について、平成二十一年(現在)と、昭和六十二年(記事で取り上げられていた約二十年前)を取り上げて調べた。

(左上に続く)

### 三 まとめ

平成二十一年と昭和六十二年の第一小学校の平均タイムを、下の【グラフ】のよう

【グラフ】50メートル走の平均タイムの変化(第一小学校6年生)



うにまとめた。

調査をきっかけに、もっと速く走れるようになるにはどうすればいいのだろうかと考えようになった。

これからも、体力や運動の仕方などに関心をもって、いろいろな本を読んで調べたり、積極的に運動に取り組んだりしたい。

◆平成二十一年の第一小学校六年生の平均タイムを調べた。

一つめとして、ぼくたち六年生の平均タイムを調べた。

まず、体育の時間に学年全員の五十メートル走のタイムを計った。走った人数は、男女ともに三十五人ずつだった。

次に、平均タイムを先生に出してもらった。平均タイムは、男子は九秒〇、女子は九秒三だった。

◆昭和六十二年の第一小学校六年生の平均タイム

二つめとして、昭和六十二年のぼくたちの小学校の六年生の平均タイムを調べた。学校図書館でさがしたが、データが見つからなかった。そこで先生に相談すると、先生がデータを見つけてくださった。平均タイムは、男子は八秒五、女子は八秒八だった。

(右下に続く)

目的や意図に心じて、必要な事柄を整理し、事象や意見などを関係付けて書く。

・報告文を書くために、必要な材料をメモに書いたり、グラフを用いたりして自分の考えを効果的に書く。

この問題にあるような、長い文章を読むのは、難しい。 55.9%

各教科の学習や日常生活においても、様々な文章や表、グラフなどの資料から必要な情報を収集したり、報告文の種類や特徴に応じて自分の考えを表現したりする学習が必要である。

# 調査報告文を書く

(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 小国Bから)

一次は、山中さんが調べる内容を書いたメモの一部です。報告文の「二 調べた内容と結果」を読んで、**ア**の中に入るふさわしい内容を書きましょう。

[メモの一部]

## ◆平成二十一年の平均タイム

① **ア**

- ◇ 日時 平成二十一年四月十五日 三時間目
- ◇ 場所 運動場
- ◇ 人数 男子三十五人 女子三十五人
- ◇ 準備 記録用紙、ストップウォッチ、コーン

② 平均タイムを先生に出してもらおう

## ◆昭和六十二年の平均タイム

二 山中さんは、報告文の **A** の中に、調べて分かったことを書きました。あなたならどのような内容を書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

### 【条件】

- 第一小学校の六年生の平均タイムの変化が分かるように書くこと
- 報告文の「二 調べた理由」に書かれた内容と結び付けて書くこと
- 八十文字以上百字以内にとめて書くこと

(メモ) 本文の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

## 報告文を書くためには、

課題の設定から、考察までの全体を見通すことができる。

(構成表の作成)

実験したことや観察したこと等を報告するために、正確にメモをとることができる。

課題や予想に合わせて、報告する内容を整理しながら、事実や考察などを区別する。

(事実や考察)

実験や観察、調査などの事実を客観的に書く。  
経験したことから、考えたことなどを明確に記述する。

目的や意図に応じて図表やグラフなどの資料を効果的に使う。

報告文を書く目的に基づいて、調査する内容を項目立てして整理し、メモに書くこと。

目的や意図に応じて複数の情報を関係付け、自分の考えを条件に即して書くこと。

目的や意図に応じて、簡単に書いたり、詳しく書いたりすることの学習に取り組む。

多様な書くことの指導に取り組む。

## 表をもとに話し合う

(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 小国Bから)

2

川口さんの学級では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

互いの立場や意図を明確にして話し合う。

【話し合いの様子の一部】

【資料】家の中のそうじや整とんをする小学校6年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

(国立オリンピック記念青少年総合センター  
「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」による。)

司会

ここからは、川口さんたちが集めた【資料】をもとにして、「家の中のそうじや整とん」について話し合います。【資料】を見て分かったことや考えたことを発表してください。

川口

平成十六年を見ると、「いつもしている」人が少ないと思います。家の中のそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって、積極的に取り組むべきではないでしょうか。

松山

確かに、平成十六年の「いつもしている」は十五%しかいません。でも、「ときどきしている」を合わせると六十七%もいます。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。

司会

今、二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出してくれましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。

村田

わたしは、平成十七年の「あまりしていない」と「まったくしていない」に注目しました。この二つを合わせると、三十七%にもなります。しかも、平成十六年よりも増えているので、もっと取り組んだほうがいいと思います。

あなたの発表

ア

〽 (話し合いが続く) 〽

話すこと・聞くことの指導だけでなく、書くことや読むこととの関連を図る。

